

分野	授業科目名	単元名	単位数	時間数	配当時期	担当教師
専門分野 I 基礎看護学	38 看護基本技術 II	フィジカルアセスメント	1	30	1年次 前期～後期	峯松 由紀子

テキスト(発行所)	看護がみえる Vol.4 フィジカルアセスメント
テキスト以外の教材、参考図書	基礎看護学② 基礎看護技術 I (メヂカルフレンド社) フィジカルアセスメントワークブック(医学書院)

学習のねらい	医療の高度化、少子高齢化、国民の保健医療福祉に対する期待の高まりに伴い、看護師の果たすべき役割、機能が拡大し、その専門性が問われるようになってきた。その中で今まで以上に科学的根拠に基づいた看護を実践することが求められ、その実践の基礎となるフィジカルアセスメントの重要性が高まっている。 フィジカルアセスメントは、患者の健康上の問題や強みを把握するために、系統的かつ客観的に情報を収集し、身体の正常と逸脱の範囲を判別することを言う。 本科目では、フィジカルアセスメントに関する基本的な知識と技術を習得することをねらいとする。
学習目標	1. 人体の構造・機能に関する知識をもとにフィジカルアセスメントの根拠が理解できる。 2. フィジカルアセスメントの意義が理解できる。 3. フィジカルアセスメントの基本技術が習得できる。 4. 各アセスメント項目が適切な手法で実施できる。 5. フィジカルアセスメントの結果から正常・異常の判断ができる。 6. アセスメントの結果が記録できる。 7. 呼吸音シミュレーターにおいて異常呼吸音が適切な手法で聴き分けることができる。

学習スケジュール			
回数	主題	学習内容	履修形態 他
1回	バイタルサイン - 体温 -	1. バイタルサイン測定の意義 2. 体温 1) 体温測定の意義 2) 体温調節のメカニズムと影響因子 3) 体温測定の方法	・講義
2・3回	バイタルサイン - 脈拍・血圧 -	1. 脈拍とは 1) 脈拍調節のメカニズムと影響因子 2) 測定部位と測定方法 2. 血圧 1) 血圧調節のメカニズムと影響因子 2) 測定時のポイントと測定方法	・講義
4回	バイタルサイン - 脈拍・血圧測定演習 -	1. デモンストレーション 2. 学生同士で演習	・演習(実習室) ・終了後課題あり
5回	バイタルサイン - 呼吸 -	1. 呼吸調節のメカニズムと影響因子 2. 呼吸の性状と種類 3. 測定のポイントと測定方法	・講義
6回	フィジカルアセスメントとは	1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの原則 3. フィジカルアセスメントの基本技術	・講義
7回	生命を維持する機能のフィジカルアセスメント - 呼吸器系 -	1. 呼吸器系の解剖と生理 2. 呼吸器系の フィジカルアセスメントの実際 - 問診・視診・触診・打診・聴診 -	小テスト① 『ワークブック』 p2～23の範囲 ・講義
8回	生命を維持する機能のフィジカルアセスメント - 呼吸器系演習 -	1. デモンストレーション 2. 学生同士での演習	・演習(実習室)
9回	生命を維持する機能のフィジカルアセスメント - 循環器系 -	1. 心臓・血管系の解剖と生理 2. 心臓・血管系の フィジカルアセスメントの実際 - 問診・視診・触診・打診・聴診 -	小テスト② 『ワークブック』 p24～45の範囲 ・講義
10回	生命を維持する機能のフィジカルアセスメント - 循環器系演習 -	1. デモンストレーション 2. 学生同士での演習	・演習(実習室)
11回	バイタルサイン測定を中心とした総合演習	1. 事例をもとにアセスメント・測定	・演習(実習室)
12回	食べる、栄養をとりこむ機能の フィジカルアセスメント - 消化器系 -	1. 消化器系の解剖と生理 2. 消化器系の フィジカルアセスメントの実際 - 問診・視診・聴診・打診・触診 -	小テスト③ 『ワークブック』 p46～65の範囲 ・講義

13回	食べる、栄養をとりこむ機能の フィジカルアセスメントー消化器系演習ー	1. デモンストレーション 2. 学生同士での演習	・演習(実習室)
14回	見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す機能の フィジカルアセスメント ー神経系ー 身体を動かす機能のフィジカルアセスメント ー運動器系ー	1. 中枢神経系の解剖と生理 2. 中枢神経系の フィジカルアセスメントの実際 1)意識状態 2)神経学的所見 3. 四肢のフィジカルアセスメント	小テスト④ 『ワークブック』 p66～77の範囲 ・講義
15回	見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す機能/ 身体を動かす機能のフィジカルアセスメント ー神経系・運動器系演習ー	1. デモンストレーション 2. 学生同士での演習	・演習(実習室)

単位認定の方法	<p>1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること</p> <p>2. この科目は以下の内容で評価を行う。</p> <p>1)小テストを4回行う。小テストは20点満点とする。随時行う小テストの合計を20%で換算する。</p> <p>2)終講テスト・・・45点満点</p> <p>3)実技テスト・・・25点満点</p> <p>4)呼吸音シミュレーターを用いての異常呼吸音の聞き取りテスト・・・5点満点</p> <p>5)ポートフォリオ・・・5点</p> <p>①日々の学習内容を時系列にファイルする。1点</p> <p>②自己学習の成果がわかる。2点</p> <p>③本科目の学びと成長について400字に程度にまとめる。2点</p> <p>※ポートフォリオの提出は終講試験の翌日、指定時間までに指定場所に提出する。</p> <p>1)～5)の得点を足して60点以上が合格となる。</p> <p>3. 1と2の条件を満たして1単位認定する。</p>
受講上のアドバイス	<p>フィジカルアセスメントは、解剖生理学の知識を基礎とするものです。学習してきたことを思い出しながら根拠に基づいたフィジカルアセスメントの基本技術を習得しましょう。</p> <p>この講義では講義で学んだことを実践できるように、講義→演習を繰り返していきます。演習には、予習をして臨んでください。演習では上半身裸になることが必要な場合があります。プライバシー保護のためバスタオルを持参してもらいます。どうしても裸になることに抵抗のある人は、開講前に相談してください。</p> <p>視て・触れて・たたく・聴いて、という技術を通して身体が教えてくれるサインを捉えていきます。看護学校に入学して初めて聴診器を使用する科目です。技術が習得できた時の喜びは大きいと思います。楽しみにしててください。</p>
担当教員の 実務経験	病院で看護師としての実務経験あり